

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400052		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループ ホーム 京都下京の家 (1号館)		
所在地	京都府京都市下京区夷馬場町30番地1		
自己評価作成日	平成24年8月25日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JievosyoCd=2690400052-00&PrefCd=26&Versi
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域と手をつなぎ安心、安全なまた暖かい共同家庭を作っていきます。限られた時間の中、職員の手作り料理を始め、週4回の入浴などはアピールできる。がすべての面に力点を置くことは不可能であるがより全体的にレベルアップしていけるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人長啓会が運営する当該ホームは京都の中心地に位置し、近くには水族館や大きな公園があり日々の散歩コースとなっています。地域と友好的な関わりを持つことを意識し地蔵盆では準備の段階から協力したり区民運動会に参加したり近隣の住民の相談にも応じるなど良好な関係が構築されつつあります。運営推進会議には民生児童委員や老人福祉員、市職員、主治医、保健師、歯科衛生士等様々な職種の方の参加があり活発な意見交換の場となっています。時には保健師や歯科衛生士、薬剤師等の専門職から食中毒、口腔ケア、薬についてなどの勉強会を行いサービスの向上に繋げています。職員間は意見を言いやすい環境にありケアについて常に話し合いを重ね利用者の思いに沿って支援できるよう努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より玄関内の掲示と各階共有スペースに簡素化した大きい標語を掲げ常に目に触れ認識を深めている。	法人理念を基に「地域と手をつなぎ安心・安全・暖かい家庭を築きます」という事業所独自の標語を作成し玄関やリビングにわかりやすく掲示しています。地域との関わりを意識しながら朝礼時や会議時に話し合いを持ち理念に沿ったケアが出来ているか確認をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来より近隣の挨拶を始め回覧板の回送、入居者散歩時の交流他、要望、苦情を聞いたりしている。	自治会に加入し、地域の地蔵盆では準備段階から協力し近隣の方との関わりをもっています。また手品のボランティアの訪問や地域で行われる防災訓練、区民運動会等の行事への参加など、地域の方の相談にも応じながら交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の地蔵盆の準備の協力や近隣の通りすがりの方の入居希望者の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃お世話になっている行政職他、各専門職の方々の参加をお願いして各専門分野よりの意見、知識を頂きサービスに役立てている。	会議は民生児童委員、老人福祉委員、市職員、保健所職員、歯科衛生士等の参加を得て2ヶ月に1回開催しています。事業所の状況報告の後意見交換が行われ、時には食中毒や感染症、口腔ケア、薬の説明等それぞれの専門家から指導を受けるなど有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議、連絡会を通じて特に密接ではないが先方の業務に障害が出ない様に必要に応じ協力関係を築いている。	担当者の運営推進会議への出席が得られています。また、直接出向き生活保護関連事項等、何かあれば相談に乗ってもらったり情報収集するなど協力関係の構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	例外的に玄関の施錠は保安、安全の為にしているが原則として身体拘束は発生していないしさせない方針。天候等により適宜散歩、居場所の転換による気分転換を図ることなどケアの一環を実践している。	職員は法人からネット上で定期的に流される身体拘束についての内容を受け理解を深めています。各ユニットの入り口は施錠していますが、家族には説明し理解を得ています。職員は施錠による弊害を理解しており外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添って出かけられるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志内部けん制しながら虐待防止を徹底しているしさせない。また、そう言う職員は見当たらないが出ない様に当法人の講習の機会を得て万全を期している。。		

グループホーム 京都下京の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では理解はしているが活用に至っていない将来的には視野に入れていきたい。。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時において今後誤解の無きように、簡単明瞭解り易く金銭面を始め、火急の事態での対応他、個別的問題を聞き説明納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当を始めケアプラン作成時、定期的嗜好食調査時他、随時聴取を通じて反映させている。	嗜好調査や家族の面会時、介護計画の作成時等に意見や要望を聞いています。お茶の種類についての要望があり職員間で検討した結果、希望に応じて熱いお茶や麦茶等好みのお茶を提供をするなどサービスの向上に活しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従来より毎月定期会議、日々の職場での連絡事項を通じてお互いに提案、意見交換を行っている。	毎月の定例会議やユニット毎の話し合いの他、月末に管理者が直接意見を聞く機会を設けています。特にユニット毎の話し合い時には活発な意見が出され日々のケアに反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は全職員の福利厚生面においても法人内の福利施設での関係各講習会やスポーツ親睦会や慰安旅行など気分転換を含めた職場環境をつくっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前より一貫して統括法人の役職講習、他自己啓発のための講習資格の取得の奨励それに付随する手当等職員組織全体のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連絡会、交流会に参加し事例紹介や各施設での出来事など聞き視野、見聞を広げているが職員間の交流も拡大していきたい。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人様不安、孤独緊張状態でありできるだけリラックスできるように声掛け、見守り、受容等意思の疎通を図り安心感を得ていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が不安と感じている点を聞き特に本人の体調不良時等の火急時の対応と家族様医療機関への連絡や他、金銭の収支、購入時の承諾や事故発生時の対応等連絡を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様の主たる要望を一義的に聞き、充分対応支援できることを説明し共同生活においても慣れる雰囲気を感じられるまで特に気を配り個別的対応を心がける。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親しくなり過ぎず管理しすぎず適度な距離を保ち家族的な和やかで笑顔の絶えない雰囲気を作り共に生活していくのが理想であるが道半ばである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の再来訪を促し、自由な自宅への外出、外泊において家族間の意思疎通を深め3者関係において家人と共に本人を支持していく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着をモットーに知人、親戚等の訪問や近隣への散歩を通じてできるだけ支援している。	知人の訪問時にはお茶を出すなどゆっくりと過ごして貰えるよう配慮をしたり、住んでいた家を見に行ったり、以前から続けている習字の練習に出かける準備等、今までの関係が途切れないよう希望に応じて支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂兼居間の共有スペースにて各個人が自由に寛げる様な雰囲気と職員が話題作りし和やかに団欒できるように誕生日会、季節的行事レク、ゲーム、歌などを通じて支援。		

グループホーム 京都下京の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年2月開設以来、数名の方が入院退去、他施設への転居等それぞれの事情により終了してしまったが以降や〃疎遠になりつつある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の好きな物、又日常必需品の買い物を始め美容散髪の希望など家族様、本人の意向を踏まえ対応している。	初回のアセスメントや家族を通して利用者の意向を把握しています。日々の会話や表情等から引き出した要望については介護日誌に記録し職員間で共有すると共に本人の意向に沿ったケアになるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や直接本人様又は担当ケアマネジャーより生活歴、趣味、職歴などの情報を把握し生活の、介護の方針にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢、体力、病歴などを勘案して散歩を始め各自の出来る範囲の把握、理解に努め本人に負担の少ないように苦にならない程度の各自のADL生活レベルを堅持していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	食事形態、歩行の安定、励行など現場職員より職員会議を始め、家族様とも来訪時や電話連絡時始め随時書面や口頭にて意見を聞き作成の素材としている。	利用者、家族からのアセスメントを基に介護計画を作成し3カ月に1回モニタリングをしています。6カ月毎の見直し前には職員間でサービス担当者会議を開催し、必要に応じて医師、家族の意見を反映し現状に即した介護計画となるよう努めています。また状況に応じてその都度計画の変更をしています。	全職員が介護計画や具体的なサービス内容を把握し、実践に結び付けることでより確実なモニタリングになるよう工夫されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員申し送りノート、経過支援記録、顔貌、介護日誌を通じて発熱、食欲不振、体調不良等の健康面での異常を把握し情報を共有。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化やニーズを掴み固定概念に捉われずその都度、臨機応変的に急変時の対応、代行など多機能的に動いている。		

グループホーム 京都下京の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ地域ボランティアの活用も視野に入れ、より良い生活をして行く上で検討。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設嘱託医がいるが以前からのかかりつけ医との関係も大事にしながら緊急時など困った時に対応して頂いている。	従来のかかりつけ医を希望している利用者もあり家族が受診に同行しています。協力医の往診は週に1度あり健康管理が成されています。協力病院とは24時間連絡可能となっており適切な医療を受けられるよう支援しています。希望に応じて歯科往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	嘱託医を通じて看護婦による処置、頑固な便秘に伴う浣腸など適宜看護職サイドとも連携して協力をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	嘱託医を通じ入院時にはホームでの生活様式、日々の体調などの情報を提供しバックアップをし入院見舞いを兼ね情報を聞き退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	将来的にあり得る入院や重度化等を見据え施設での介護の限界を認識し主治医、家族様間にて具体的に連絡を密にして火急時の対応をしている。	入居時に出来ること出来ないことについての説明をしています。現時点では看とりの経験はありませんが、医療的な措置を必要としなければ終末まで見ていきたいという思いを持っています。今後の方向性については、法人の検討課題ともなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急処置や防災体験、知識、情報の収集を視野に入れ奨励していくつもりであるが個人レベルでの実際訓練を紹介。勤務の都合上団体での訓練は不十分。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法定訓練を踏まえ上記訓練、講習を体で体得している段階まで達していないが今後対応していけるように多忙の中努力していきたい。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜間想定で避難訓練を実施しています。元気な利用者は非常階段も使用しながら行っています。運営推進会議で実施報告は行っていますが、参加の依頼や近隣の方への声掛けは出来ていない状況です。地域の防災訓練には利用者と共に参加しています。	地域の方の協力が得られるよう運営推進会議等で訓練への見学、参加の依頼をされてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当然の社会常識であるが入室時は必ずノック、声掛けをしてから入り、又、本人の希望、意向等に耳を傾ける。	職員は事業所内の講習で理解を深めており、表現の仕方や言葉使いに配慮し大声を出さないように気を付けています。不適切な言動がみられた場合は管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に笑顔で低い又は同じ目線よりわかりやすい単純な表現にて本人に選択して頂くようなアプローチしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、入浴などホーム側のサービスを提示するも本人の意思を尊重し無理辞意しない、また、日々の生活要求に対してもたのしく過ごせるように希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は本人の好みを踏まえ好きな物をきていただき、日々同じものを着たきりにならない様に着替え、理容、美容面においては専門業者の訪問美容にて好きなスタイルにカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1番の楽しみは食事にあり新鮮な素材は基より品数も栄養バランスよく配膳、おやつは職員の愛情豊かな手作りにて提供。誕生日行事食には本人の好みを食する。嗜好調査も実施	毎日納入業者から食材が届き職員が食事の準備をしており、利用者は下膳や食器拭きなどの後片付けを手伝っています。行事の時には利用者の好みのものを取り入れ、食材の買い物から一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつの飲み物は本人の希望を聞きお茶やコーヒーなどお好みしだい食事の摂取は量的に強要せず本人のリズムにて摂取、又体調、口腔不良時には食形態の変更で対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時、就寝時は実行できているが毎食後は不完全である。入れ歯の着脱、清潔管理は職員がホローしている。		

グループホーム 京都下京の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを掴みリハパンツから布パンツに移行できるよう自立を視野にトイレまでの誘導、見守りを実行	排泄記録を基に排泄パターンを把握し、随時誘導をしたり見守りを行うことによって失敗が少なくなってきました。紙パンツから布パンツに移行できるよう自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活での体動、散歩や食事的には繊維、牛乳、ヨーグルトなどの乳製品を食したりして便意を促しているがやむなく薬剤に頼るところがある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人拒否日を含め週4回の入浴とし、個人浴にてゆっくりと入浴、洗身されできるだけ自身で衣類の着脱、整容をしていただき、水分補給で一服。	午後2時から4時まで準備ができており、週4回の入浴を目途にしています。拒否のある場合は無理強いせず時間をずらして再度声をかけたり職員を変更する等、工夫をしながら対応しています。時には入浴剤等を利用し心地よい入浴ができるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望にて午後の仮眠の自由や起床時、就寝時の時間管理を緩和にして自室での寛ぎも大切にして自由性を持たせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	在庫の薬管理も職員1人の人に任せないで誰でも対応できる様、未だ職員各自完全理解できていない模様。とりあえず配薬時は本人確認、責任感を持って誤薬をなくす。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の嗜好趣味を把握し折り紙、漢字、計算、ぬりえ等や洗濯物整理、軽手伝いを苦にならない程度に社会的共同参加をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣の散歩は常態化しているが月1回の行事のおいても今後リフト車の導入もあり多方面への移動も可能になりそう。	日々近くの公園に散歩に出かけたり水族館、花見、ドライブ等、月に1回外出の機会を設けています。利用者の希望に応じて個別に出かけることもあります。	

グループホーム 京都下京の家（1号館）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の希望や金銭トラブルの原因にもなる可能性が有るため職員が代行して買い物等を行うが例外的に家族様納得の上少額の現金を所持して自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望や家族との絆が疎遠にならない様に最低月、一度の「たより」に生活状況をのせてたり家族との事務連絡や体調不良時の時などを始め交流している。又遠方の息子さんより定期的にたよりのある方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内外の換気、空調の管理を行い又共有スペースにはカレンダーや、行事写真、又、随時本人の希望を聞きつつ快適な生活ができるように心がけている。	リビングには行事の写真や利用者の作品が飾られています。空調の温度管理や換気等、快適な住環境にも配慮しています。また対面キッチンとなっており料理の匂いが漂い、生活感のある共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間兼の共有スペースにてその時の気持ちや体調を大切に生活空間の移動により気分転換を図り生活にハリ、変化の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりした生活空間に卓袱台、TV、小タンス着慣れた衣類を着て従来よりの生活様式を継続できるようにしている。	居室にはタンスや鏡台、いす、テレビ時計、家族の写真等、今まで使用していた家具や安心出来る品を持ち込んでもらい居心地良く過ごせるよう配慮しています。床はフローリングになっていますが希望に応じて畳を敷くことも可能となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーであるが各居室は本人の安全性を取り入れた低いベッドの利用。危険性のあったトイレ内に手摺設置。		